



No.55
 特定非営利活動法人(NPO法人)
 建築ネットワークセンター
 〒162-0042
 東京都新宿区早稲田町74 鱒淵ビル301
 TEL 03-6457-3178 FAX 03-6457-3179

もはや例外ではない “過去にない暴風雨” 根本的解決は温暖化防止への真摯な取組み

末延渥史 東京災害対策連絡会世話人

近年、伊豆大島土砂災害（2013年）、
 広島土砂災害（2014年）、東北豪雨・鬼
 怒川水害（2015年）、北海道豪雨災害
 （2016年）、九州北部豪雨災害（2017年）、
 西日本豪雨災害（2018年）台風15号災
 害（2019年）など異常気象がもたらす災
 害が毎年発生し、年々、その勢いを強め
 ています。

これらの災害の発生時の気象状況を見
 ると、台風の接近や梅雨前線の停滞など
 で、山際に積乱雲のバックビルディング
 が形成され、その積乱雲群が100km
 にも連なる線状降水帯に発達。くわえて
 長時間滞留することで、「過去に経験し
 たことのない」1000mmにも及ぶ雨や
 中心気圧が955hPa・最大風速58
 mもの暴風雨が発生し、甚大な被害がも
 たらされたことがわかります。

これらの異常気象は産業革命による
 工業生産の発展と世界の市場化のもと
 で、世界の年間平均気温が100年間
 で0.73度も上昇するという地球温
 暖化に起因するもので、その根本的
 解決は温暖化の防止に求められます。
 ところが歴代自民党政権はこのこと
 に目をつぶり、経済優先の環境破壊
 の路線をつきすすむことで温暖化を
 加速させているのです。政治が国連
 の「気候変動に関する政府間パネル」
 に連帯し地球温暖化防止に真摯にと
 りくむことが第一義的課題です。

上流の山林保全、都市部の地下貯水
 東京では奥多摩や島しょ部での豪雨
 による土砂災害と風害、都市部での都
 市型ゲリラ豪雨による被害が発生して
 います。対策としては荒川などの大規

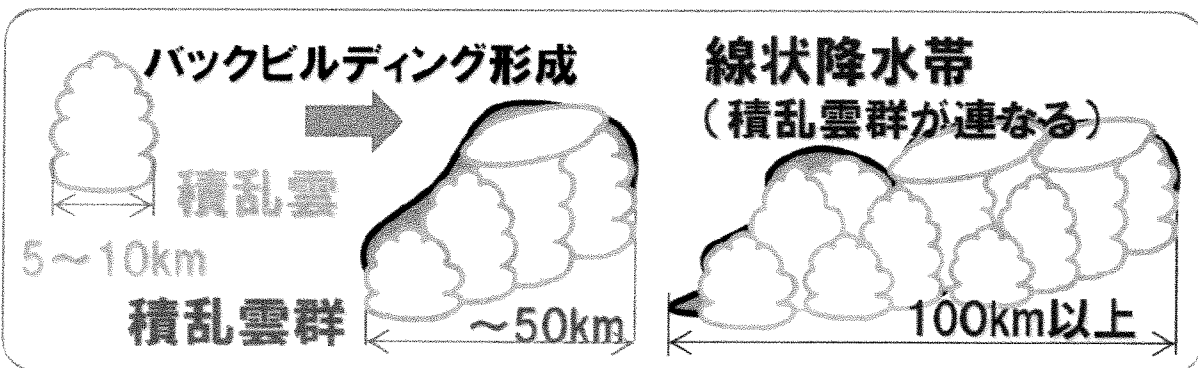


図 「過去にない暴風雨」をもたらすバックビルディングの仕組み(気象研究所)

模河川での上流域の山林保全による保水、
 堤防の決壊、洗掘防止、台地部をながれ
 る中小河川では上流域での緑地の確保や
 貯水池（槽）や雨水浸透マスなどによる
 保水。市街地では墨田区がとりくんでい
 る雨水の再利用（建物に雨水貯留タンク
 を設置し中水として利用）やビル地下へ
 の一時貯水施設、環7地下河川や中小道
 路の下に埋設する地下貯留管などの雨水
 対策が効果的です。



学習会を開催しました（写真）。

訪問診療とは高齢者など通院が困難な人
 が、病院で受けていた医療サービスを定期
 的に自宅で受けられる制度です。通院困難
 となったとき多くの人は入院より自宅での
 継続的な医療を受けたいと願っています。
 さらに「最期も自宅で」と考える人は半数
 以上を占めますが、実際は7割以上が病院
 で最期を迎えます。これは欧米に比べると
 非常に高い数値です。超高齢社会に向かう
 中、在宅医療の現状と訪問診療の課題につ
 いて、伊藤医師にわかりやすく説明してい
 ただきました。

伊藤医師は鬼子母神診療所に着任して35
 年。この間、病気で休んだのは一度だけで、
 「これからもできるだけ長く診療を続けて
 いきたい」と意欲を語ります。（H.F）

患者に寄添い半世紀 超高齢社会の訪問診療

往診で半世紀以上、現在も現役の訪問医師と
 して活躍する伊藤一二医師（鬼子母神診療所・
 元東京保健生協理事長）をお迎えして、建築ネッ
 トワークセンター・すまい福祉まちづくりネッ
 トワークは「在宅医療」「訪問診療」に関する



秋の講演会 「住宅・福祉、老後の住いづきを考える」

とき 11月9日(土)午後2時～4時30分 午後1時開場
 ところ 四谷地域センター 12階・多目的ホール
 新宿区内藤町87番地 四谷区民センター12階
 参加費 700円、新宿区民・学生は500円
 講師 阪東美智子氏 国立保健医療科学院生活環境研究部
 上級主任研究官・博士(工学)
 主催:建築ネットワークセンター 後援:新宿区